



はじめに

この冊子は生産工学部に入学したみなさんの大学での学び方やキャンパスライフに必要なことを簡潔に書いてあります。必ず読んで内容を理解してください。

また入学時だけでなく、進級していく度に履修科目も異なりますので、学修のマニュアルとしていつも活用するようにしてください。

【履修編】には、本学部の教育内容が記載されています。21世紀に求められる工学教育の内容を盛り込んだ学部の新しいカリキュラムが2022年度からスタートしています。専門領域を重点的に学修するためのコース制を採用し、工学の多様化と専門化に対応できるように考えています。また工学の高度化に対応して学部から大学院への継続教育体制を整え、大学院まで連続する専門分野と、専門領域の多様化と学際化に対応したカリキュラムが構成されています。将来の進路を視野にいれて、各自が主体性を持って学修の目標を明確にし、科目を選択することが望ましくかつ重要です。さらに、各学科の専門的な基礎知識あるいは工学分野共通に必要な知識を学修するのに必要なコア科目を設置し、学修の仕方や成果の焦点がぼやけないように留意しています。

まず、学科の特徴、教育目標をよく理解してください。次に、授業科目及び履修方法についても理解してください。他学部との相互履修制度もあります。

さらに、より高度の専門知識を修得するためには、大学院に進学することを勧めます。

進学も将来の選択肢として考慮している人は必ず読んで内容を理解してください。

将来、高校などの教員を希望する人は、履修すべき科目などを必ず理解してください。

その他には交換留学制度など海外留学に関することを紹介しています。

【生活編】は、本学に在籍する学生のみなさんに必要な事務手続きの方法、内容や、キャンパスライフを有意義に過ごすための規定などを紹介しています。

「学生生活について」では、諸手続き、証明書の発行など学生生活に必要な事務手続きの内容や、生活上困ったことや健康上の問題がある時の大学側の対応の仕方を紹介しています。

「各種施設の利用」では、図書館やコンピュータ関連施設、体育施設、研修施設などの利用方法を紹介しています。

学生のみなさんを経済的にサポートするために色々な制度が設けられていますので、奨学金制度を利用したい人は「将来の道しるべ」に目を通してください。この章には学部卒業後に取得できる資格や、就職活動の方法を紹介しています。

「学則及び諸規定（抜粋）」は教育、学修、生活全般にわたる大学の組織的運営を円滑に行うための、大学側と学生のみなさんが守るべき約束ごとの内容を紹介しています。大学側もこれらの規則に準拠して、教育活動などを行っています。

【キャンパスガイド】には学生のみなさんが、最低限知っておくべき情報が履修方法を中心として、記載されています。他に、学科ごとの情報として『学習の手引』、教職員スタッフと学生のみなさんとのコミュニケーションを図るための情報誌として、『スプリング』が毎年2回発行されています。また「日本大学生産工学部ホームページ」は学内・学外及び海外に向けて学部、学科、研究室の紹介など、諸々の情報を発信しています。

【日本大学生産工学部ホームページアドレス】

<https://www.cit.nihon-u.ac.jp/>



日本大学の目的及び使命

(学則第1条)

日本大学は日本精神にもとづき
道統をたつとび憲章にしたがい
自主創造の気風をやしな
文化の進展をはかり
世界の平和と人類の福祉とに
寄与することを目的とする

(学則第2条)

日本大学は広く知識を世界にもとめて
深遠な学術を研究し
心身ともに健全な文化人を
育成することを使命とする

生産工学部の教育目標 (教育研究上の目的)

幅広い教養と経営能力を持ち
学生個々の個性・能力を生かして
人類の幸福と安全を
実現するために
考え行動し
社会に貢献できる
技術者を養成する

このために技術の進歩に対応できる
基礎学力と
応用能力及び技術の社会と
自然に及ぼす効果と影響について
多面的に考える能力を培う



学科における人材の養成その他の教育研究上の目的

機械工学科

機械工学は生産活動の基盤を支える学問であり、我々の生活を豊かにしてきた。近年、“機械”は人間や自然環境との調和を図ることが重要視され、長期的、広域的視野を持った技術者が必要とされている。このような背景から、機械の面白さやものづくりの楽しさを体感した経験を持ち、ものの作り方や使われ方を知り、自分が作りたいものを具体化して社会の理解を得ながら、ものづくりの現場をグローバルな視点からマネジメントでできる人材を養成する。

電気電子工学科

産業構造の変革と高度情報化社会の進展に伴って、電気電子工学の進歩は著しく、また多様化している。これに対応できるように基礎学力と専門領域の知識を身に付け、さらに経営・管理工学を学び、実験・実習を通じて問題解決能力が高く、創造性豊かで、しかも経営能力も有する技術者を養成する。

土木工学科

土木分野に関する理論・現象を実験・実習・設計を通して習得するとともに、実社会における生産実習(企業体験)と経営や安全管理の基礎を学び、専門職の実務に対応できる基本能力を備えた技術者を養成する。さらに、習得した知識の集大成として、土木分野の課題を探究・創造・解決するプロセスを学び、土木技術者としての総合能力を養成する。

建築工学科

建築の基礎となる、「計画」、「構造」、「環境・設備」、「材料・施工」の総合的知識を持ち、高い倫理観のみならず、国際感覚、問題解決能力、応用能力、創造力、さらには発表能力・対話能力に重点をおいて、徹底的に教育指導をし、国際化が進む社会の要請に応えうる、そして経営能力も有する人材を養成する。

応用分子化学科

地球上に存在する物質は、わずか100種類ほどの元素の組み合わせによって成り立っている。これらの物質を対象に、豊かで安全な社会を維持させるために資源と環境を調和させながら、材料の無限の可能性を追求する教育研究を行っている。これによって、物質的な学問知識に加え、必要な特性を持つ素材を生み出す「分子デザイン能力」、環境に優しいものづくりのための「グリーンケミストリー」の概念、及び技術者としての倫理観を備え、製品化に向けた計画から生産するまでの「マネジメント能力」を身に付けた化学技術者を養成する。

マネジメント工学科

自然・社会・人間科学などの科学技術を応用した工学的知識をベースに、健全な企業経営の推進、自然・社会環境の向上、人にやさしい製品やシステムの開発・設計そして運用などにかかわる工学的理論や方法論を教育研究し、経済社会の活動を効果的に進めるため、グローバル化にも対応した経営・管理技術を身に付けた人材を養成する。

数理情報工学科

IT(情報技術)並びにICT(情報通信技術)が、既存の生産活動並びにビジネスの仕組みを大きく変えるエンジンであるという認識に立ち、インターネットの活用法、各種プログラミング技法、ソフトウェア構築法などの情報処理能力、並びにシステム工学・数理工学に裏付けられた問題発見・解決能力を習得した人材を養成する。

環境安全工学科

地球規模の視野を持ち、持続発展可能な社会の実現のために工学分野を複合的に学び、環境共生とエネルギーに関する知識と応用能力および技術が社会と自然に及ぼす効果と影響について、サステイナブル(持続可能)な視点から考え行動できる総合能力を有する技術者を養成する。

創生デザイン学科

自然科学をベースとする工学知識や技術、芸術を基礎とする感覚や技法、その両方を駆使して人と人工物の理想的な関係を築くことこそがデザインであると捉え、これを実践できる人材を育成することを目標とする。これを実現するために、統合された理論的なデザインの方法である「デザイン思考」の重要なステップ「共感」「問題定義」「創造」「プロトタイプング」「テスト」をカリキュラムに取り入れ、社会全般を見渡して、新しい商品やしくみを提案したり、開発できるデザイン・エンジニアを養成する。

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

【自ら考える】

- 論理的・批判的思考力
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- 問題発見・解決力
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

- 挑戦力
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- コミュニケーション力
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- リーダーシップ・協働力
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- 省察力
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学マインド

- 日本の特質を理解し伝える力
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身に付け、その特質を自ら発信することができる。
- 多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- 社会に貢献する姿勢
社会に貢献する姿勢を維持することができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

【自ら学ぶ】

- 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- 世界の現状を理解し、説明する力
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

生産工学部ディプロマ・ポリシー (DP)

日本大学生産工学部は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに各学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士(工学)の学位を授与する。

- DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、倫理観を高めることができる。
- DP2 国際的視点から、必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- DP3 専門分野を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
- DP4 生産工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。
- DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
- DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

生産工学部カリキュラム・ポリシー (CP)

日本大学生産工学部(学士(工学))では、日本大学教育憲章(以下、「憲章」という)に基づく卒業の認定に関する方針として示された8つの能力(コンピテンシー)を養成するために、「**全学共通教育科目**」、「**教養基盤科目**」、「**専門教育科目**」、「**生産工学**

系科目」からなる教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目

学びをはじめめる新入生に対し、日本大学の学生として共通して身につけるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルの涵養と、実社会との関連から教養を学ぶ意義の理解や自身の専門分野を学ぶ意識の向上をねらいとする科目として「**自主創造の基礎**」及び「**日本を考える**」を設置する。

教養基盤科目

統合的な視野で物事を正しく理解・認識するための能力を養うと共に、幅広い教養を身に付け、豊かな人間性や知性を育成するための「**教養科目**」、「**国際コミュニケーション科目**」、「**基盤科目**」と、俯瞰的かつ多面的な視点を育成するための「**横断科目**」によって編成する。

専門教育科目

各学科の専門分野を体系的に理解するための専門工学科目と、体験的学習を通じて専門知識より深く理解し応用力をつけるための実技科目によって編成する。

生産工学系科目

理論と実践の融合によって経営がわかる技術者を育成するためのキャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育で構成される科目群を体系的に編成する。

上記を構成する授業科目は、各能力に即して体系化するとともに、講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れ、さらに、PBLや反転授業などによるアクティブラーニングの手法を授業形態に合わせて適切に取り入れた効果的で多様な学修方法によって実施する。

なお、「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の8

つの能力（汎用的能力）の達成度は、体系的に編成された教育課程に基づく授業科目の単位修得状況と卒業研究の到達度及び学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。具体的には、各学科の教育課程に則った評価方法(評価基準)に基づいて学修成果を評価する。そして、能力の土台となる専門的な知識・技能及び態度の達成度は、各授業科目のシラバスに明示される達成目標の達成度として、授業形態や授業手法に即した多面的な評価方法によって学修成果を評価する。

CP1 教養・知識・社会性を培い、倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

CP2 国際的視点から必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、専門教育科目等を体系的に編成する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・実技科目等を編成する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために教養基盤

科目・実技科目等を編成する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

生産工学部アドミッション・ポリシー（AP）

日本大学生産工学部では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学部では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって社会（日本社会・国際社会）に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。

問題発見及びその解決のために、必要な情報を収集・分析し、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、表現しようと努力する人。

グループやチームをとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、経営や生産管理ができる技術者になろうとする人。

なお、本学部に入学を志す者は、「求める学生像」を理解して受験していると判断し、入学試験では、学力試験等により、4年間の学修に必要な知識・技能・思考力・判断力を評価します。

生産工学部各学科のディプロマ・ポリシー

機械工学科

日本大学生産工学部機械工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、機械工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、機械工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 機械工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及び機械工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

電気電子工学科

日本大学生産工学部電気電子工学科は、日本大学教育憲

章（工学）の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、土木工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、土木工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 土木工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及び土木工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

建築工学科

日本大学生産工学部建築工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、建築工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、建築工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 建築工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及び建築工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

応用分子化学科

日本大学生産工学部応用分子化学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、応用化学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、応用化学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 応用化学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及び応用化学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝

えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

マネジメント工学科

日本大学生産工学部マネジメント工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、マネジメント工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、マネジメント工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 マネジメント工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及びマネジメント工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

数理情報工学科

日本大学生産工学部数理情報工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、数理情報工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、数理情報工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 数理情報工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及び数理情報工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

環境安全工学科

日本大学生産工学部環境安全工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工

学)の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、環境安全工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、環境安全工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 環境安全工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及び環境安全工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

創生デザイン学科

日本大学生産工学部創生デザイン学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に

生産工学部各学科のカリキュラム・ポリシー

機械工学科

日本大学生産工学部機械工学科(学士(工学))では、日本大学教育憲章(以下、「憲章」という)を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力(コンピテンシー)を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」(インターンシップ)、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

専門教育科目は、機械工学分野に関わる技術者を育成するために、機械工学に関する知識を修得するための機械力学、材料力学、熱流体力学、制御工学、材料加工学等に関する講義科目に加え、機械技術者に求められる技能としての設計、製図、製作及び実験に関する実習科目を体系的に配置する。特に、『自動車コース』、『航空宇宙コース』、『ロボット・機械創造コース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための授業科目を配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、機械工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教

基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士(工学)の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、デザイン工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、デザイン工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 デザイン工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及びデザイン工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から機械工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、機械工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・機械工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づ

き、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

電気電子工学科

日本大学生産工学部電気電子工学科(学士(工学))では、日本大学教育憲章(以下、「憲章」という)を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力(コンピテンシー)を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」(インターンシップ)、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『エネルギーシステムコース』、『eコミュニケーションコース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための専門教育科目を体系的に配置する。さらに、『クリエイティブエンジニアプログラム』においては、日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定基準に基づいた知識・技能・態度を修得するための科目を必修科目として配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、電気電子工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を

評価する。

CP2 国際的視点から電気電子工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、電気電子工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・電気電子工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

土木工学科

日本大学生産工学部土木工学科(学士(工学))では、日本大学教育憲章(以下、「憲章」という)を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力(コンピテンシー)を養成するために教育課程を編成

し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

専門教育科目においては、土木工学分野に関連する知識と技術基盤を修得する「専門基礎科目」、獲得した土木工学の基礎知識と能力を活用して創造性豊かなエンジニアを育成するための「応用専門科目」の科目群を配置し、土木工学に関わる実用的な学修を行う。また、より深い理解と実践力を高めるために、充実した実験・実習等の「実技科目」が配備され、社会の即戦力として活躍できるエンジニアを育成している。なお、これらの科目は、日本技術者教育認定機構（JABEE）による評価基準や評価方法に基づいている。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、土木工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から土木工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、土木工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・土木工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケ

ーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

建築工学科

日本大学生産工学部建築工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

専門科目においては、講義、演習、実験、実習、ワークショップ等の授業形態を組み入れた多様な学習方法による教育課程を編成し実施する。

また、学修成果の評価は、専門的な知識・建築理論及び科学的思考力を修得する授業科目に関しては、授業形態に即した多面的な評価方法により、各授業科目のシラバスに明示される達成目標の達成度について判定し、「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の8つの能力への達成度に関しては、体系的に編成された教育課程に基づく授業科目の単位修得状況と卒業研究の到達度、学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、建築工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から建築工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編

成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、建築工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・建築工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

応用分子化学科

日本大学生産工学部応用分子化学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎

力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『応用化学システムコース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能・態度を修得するための専門教育科目を体系的に配置する。

『国際化学技術者コース』においては、日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定基準に基づいた知識・技能及び態度を修得するための科目を配置する。特に、国際的に通用する化学技術者に必要なエンジニアリング・デザイン能力を育成するための実技科目として、「化学プロセスデザイン演習」、「化学プロセスデザイン実験」、「エンジニアリング・デザイン型卒業研究1,2」を必修科目として配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、応用化学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から応用化学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、応用化学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・応用化学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達

成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

マネジメント工学科

日本大学生産工学部マネジメント工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『ビジネスマネジメントコース』『経営システムマネジメントコース』『フードマネジメントコース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための専門工学系科目を体系的に配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、マネジメント工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点からマネジメント工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、マネジメント工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を

評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・マネジメント工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

数理情報工学科

日本大学生産工学部数理情報工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『シミュレーション・データサイエンスコース』・『メディアデザインコース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための専門教育科目を体系的に配置する。

『コンピュータサイエンスコース』においては、日本技術

者教育認定機構（JABEE）による認定基準に基づいた知識・技能及び態度を修得するための科目を配置する。特に、国際的に通用する情報技術者に必要なエンジニアリング・デザイン能力を育成するための科目として、「ソフトウェア構築及び演習」、「プロジェクト演習」を必修科目として配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、数理情報工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から数理情報工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、数理情報工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・数理情報工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

環境安全工学科

日本大学生産工学部環境安全工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『環境安全コース』及び『環境エネルギーコース』においては、技術者としての将来の専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための専門教育科目を体系的に配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、環境安全工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から環境安全工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、環境安全工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・環境安全工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づ

き、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

創生デザイン学科

日本大学生産工学部創生デザイン学科(学士(工学))では、日本大学教育憲章(以下、「憲章」という)を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力(コンピテンシー)を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」(インターンシップ)、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

専門教育科目は、『デザイン思考』に基づいて〈課題の発見と解決策の提案〉を実社会の中で展開できる人材を育成するために、〈共感・課題定義・発想・プロトタイプ及びテスト・実装〉の5段階に準えて考える力を養成する講義科目及び内容で構成する。講義科目としてはその考え方を知識として身につけ、実習科目ではその知識に基づいてデザインを実践することができるように内容を編成する。

『プロダクトデザインコース』及び『空間デザインコース』のいずれも、技術者としての将来の専門性を考慮し、それぞれの分野において特に必要とされる知識・技能及び態度を修得するための科目を配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、デザイン工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点からデザイン工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、デザイン工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・デザイン工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。